



平成30年7月26日

2018年度資料展示『病理学者、原子野をゆく

—広島大学医学部教授・玉川忠太の原爆症への挑戦—』

1945年8月の原爆投下直後から、広島では多くの医学者による救護活動が行われた。彼らは、当時としてはまだ知られていない原爆被災を受けて傷ついた多くの人々を目の前にして、その原因の究明や治療に力を尽くした。特に、医学者にとって未知の世界であった放射線災害の原因究明は、重く大きな課題となった。そして、その中に、広島大学医学部病理学教室の初代教授となった玉川忠太がいた。この当時、玉川は広島医学専門学校の教授であり、被爆直後の広島の原子野で奔走した科学者の人一人であった。

本展示では、昨年8月に確認した広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子病理学研究室に所蔵されている玉川忠太資料^{*1}を中心に、原爆放射線医科学研究所所蔵資料なども含め、被爆直後からの医学者たちの取り組みの一端を紹介する。

現在も原爆による身体への影響の実像は明らかではない。しかし、玉川忠太のような当時の広島の医者・医学者の究明への努力がスタートしなければ、被ばくの問題について、現在のレベルほどに今私たちは迫ることはなかったはずである。その原点の意味を改めて問い合わせる。

記

1. タイトル：「病理学者、原子野をゆく広島大学医学部教授・玉川忠太の原爆症への挑戦」
2. 場所：広島大学医学部医学資料館（広島大学霞キャンパス）
3. 開催期間：2018年8月3日（金）～9月20（木）

※前日（8月2日（木）14:00）プレオープン（マスコミ向け内覧会）
4. 特別協力：広島大学大学院医歯薬保健学研究科 分子病理学研究室
5. 共催：広島大学原爆放射線医科学研究所・広島大学医学部
放射線災害・医科学研究拠点（広島大学・長崎大学・福島県立医科大学）

*1：2017年8月5日『中国新聞』朝刊掲載記事「原爆死の解剖記録 克明 広島壊滅直後の19例 広島大院に現存」（西本雅実）参照

【お問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所

附属被ばく資料調査解析部

担当：久保田明子

TEL:082-257-5936 FAX:082-257-5878

病理学者、 原子野をゆく

—広島大学医学部教授・玉川忠太の原爆症への挑戦—

(広島大学医学部所蔵資料および原爆放射線医科学研究所所蔵資料より)

※当時の玉川は広島大学医学部の前身である広島医学専門学校の教授でした

2018年

8/3 金 ~ 9/20 木

広島大学医学部医学資料館

特別協力 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科 分子病理学研究室

共催 広島大学原爆放射線医科学研究所・広島大学医学部

放射線災害・医科学研究拠点 (広島大学・長崎大学・福島県立医科大学)

企画・製作 広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部

10:00~16:00 (土曜日・日曜日・祝日・夏季休暇日閉館)

広島大学霞キャンパス (大学病院前)

* 入場無料 *

PATHOLOGIST IN ATOMIC FIELD



Challenge about Atomic Bomb
Diseases from Dr. Tamagawa
(Hiroshima University)

August 3
~September 20, 2018

**Museum of Medical History
School of Medicine, Hiroshima University**

Special cooperation

Department of Molecular Pathology, Graduate School of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University

Co-host

Research Institute for Radiation Biology and Medicine (RIRBM), Hiroshima University
School of Medicine, Hiroshima University

Research Center for Radiation Disaster Medical Science
(Hiroshima University, Nagasaki University, Fukushima Medical University)

Planning and production

Division of Radiation Information Registry, RIRBM, Hiroshima University